

中日友好南京柔道館視察報告書

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻 2年 莊司和大

- ・ 期間

2010年12月26日～12月30

- ・ 目的

- 中日友好南京柔道館における指導内容及び現状の把握

- 柔道の技術的指導

- ・ 中国の柔道の現状

近年、国際大会での中国人選手活躍が多く見られ、特に女子重量級に関しては、世界でもトップクラスの人材が揃っている。中国には日本で言う「味の素ナショナルトレーニングセンター」のようなトレーニング施設が何箇所もあり、そこでは、様々な競技の選手たちが国から生活費を保障してもらい、共同生活を送りながら日々厳しいトレーニングに励んでいます。今回訪問させていただいた「中日友好南京柔道館」は、南京にあるトレーニング施設「江蘇省体育学校」の中に作られています。

今回の訪問では、そのトレーニング施設で練習を行っている男女の柔道選手の練習にも参加させていただき、大変恐縮ではありましたが、指導をさせて頂くという大変貴重な経験をさせて頂くことが出来ました。

中国人選手の特徴としては、一本背負投及び払巻込を得意技にしている選手が多く、特に女子にその傾向が見られました。男子では背負投を使っている選手がいましたが、そのほとんどが片襟での技となっていました。このような特徴となったのは、中国の指導者に前襟を持った日本のような柔道を指導できるものが少ないためだと考えられます。しかし、中国の選手は現状のスタイルで国際的に活躍しており、さらに日本のスタイルを身につけることが出来たならば、さらなる活躍が期待できると感じました。



・中日友好柔道館の現状

中日友好南京柔道館は「江蘇省体育学校」の女子道場を練習場所として、週4回ほど練習を行っていました。中日友好南京柔道館は創設されてから半年程度で、現在ここで稽古を行っているものは、幼児から大人まで合わせて60人程度で、そのほとんどが初心者で、大人のうち数名は黒帯をしていました。そのため、まだ乱取稽古は行っておらず、受身、打込、補強運動などの基礎練習を主に行っていました。中日友好南京柔道館の責任者で、元中国100kg級ナショナルチームの常東氏が熱心に指導を行っているため、受身、技ともにとても上手なものでとても驚きました。また、とても楽しそうに稽古を行っており、私も柔道の楽しさを改めて実感することが出来ました。さらに、多くの父兄の方々が練習を見学しており、とても良い雰囲気の中で稽古を行っていました。

常東氏は「ここでは、日本の正しい柔道を教え、いつか中国を代表する選手をここから輩出したい。さらにただ強いだけの選手ではなく、柔道の教育的思想も指導していきたい」と述べていました。常東氏には中日友好南京柔道館が、中国の柔道の中心になれるように、今後の益々活躍に期待したいと思います

